

ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年7月1日

7月号・第138号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



Contents

§ § § § §

多土済々……………	①	自然俳句……………	⑫
新風……………	②	癒しの散歩道＆ならやま茶論……………	⑬
Monthly Repo.ならやま……………	③	青垣春秋……………	⑭
里山の今……………	④⑤	Galleryならやま……………	⑮
6月例会報告……………	⑥	蕎麦よもやま咄③……………	⑯
5月歴文研修会報告……………	⑦	ならやま景観整備……………	⑰
元気っ子田植え初体験……………	⑧	行事案内Ⅰ……………	⑱
平城宮跡自然観察会報告……………	⑨	行事案内Ⅱ & 奈良学クイズ……………	⑲
校庭自然観察会報告……………	⑩	自然教室チームだより……………	⑳
やさしい昆虫講座③③……………	⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記…	㉑

多士崎

とてもダンディーな達人

安川和男さん

顧問 阿部和生

すらりとした長身、白髪と髯の良く似合う安川さんです。「里山全般」何でもこなす事のできる達人です。じっとしているのが、苦手。いつも身体を動かしています。とくに乱雑が嫌い、きちんと整理整頓、段取り良く作業！を心がけておられ常に骨身を惜しみません。



【まき棚作り 次々と】

自然との取り組みは、お仕事を離れてからすべて身につけられたと聞いています。何でもこなすスーパーマンへの変身は、様々な機関での講習や実技を受講・研鑽され身につけられたのです。「根底に自然が好きだというのがある」と言っておられますが、「知らない事にも挑戦する」という気概が満ち溢れ、工夫することを楽しんでおられるからでしょう。周りの素材を生かした「割り木棚」作製、果樹の剪定、病枝の切除、子ども広場での遊具ロープワーク等々、八面六臂の活躍です。一方で青少年の体験学習・自然工作の指導等きめ細かい作業も厭わない器用さも併せ持っておられます。自然工作の集い等では、たちまち子どもたちから信頼されてしまう存在で、その指導ぶりは流石です。



【吐山野外センターにて 子供たちと】

いつしか関係の備品・用具が増えてきましたが、整理整頓を終えてこそ、その日の終了となるという姿勢は、ベテランになられた今も変わりません。後始末が済んでいる事を確認後、「ならやま」を後にされています。



【仲間と共に「マツ枯れ」の大木伐採】

『のらの会』という銘酒をたしなむ(?)集いがありますが、去る年の春 佐保川沿いでサクラを愛でた時の事です。素晴らしい大吟醸を下げて参加されました。黒っぽい上下に同じく帽子、まことスタイルブックから抜け出てきたようで、参加者が「オオッ！」と声をあげたものでした。日ごろの作業衣からダンディーな紳士への見事な変身ぶりに、若かりし頃のモテモテぶりの片鱗が伺えました。

銘酒を開け「さあ一献」と敬意を表しますと「酒飲まないのです…」一同これまたびっくり、健康で偉丈夫な身体とのギャップに驚かされました。恐縮しつつ大吟醸を堪能させていただき、花曇りの中、お弁当を食べたものです。



【大径木 コナラの伐採】

真っ赤な愛車「AQUA」は、紳士安川さんによく似合います。これからも健康に留意され、日々を工夫と創意にお過ごしくださって、「ならやま達人」を末永く続けてくださる事を願っています。



新幹事さんの抱負



。幹事になって

田中 修

幹事になり、重みの大変さに驚いています。

幹事のメンバーの方がたを改めて知り、皆様のベースキャンプでの活動に再認識し感嘆しております。ここ1年前、健康を維持する目的に、ならやま活動に参画致しましたが、これからは仲間の皆様には指導を得、少しずつ、早く、ならやま里山林のフィールドに溶け込み・微力ながら、(奈良・人と自然の会)のさらなる発展に少しでも、役立つ様頑張りたいと思いました。私自身、自然に対する知識は全くありませんが、自然工作・昆虫・花の知識を習得し、子供達と共に自然環境に触れ、喜びを味わえる、日々の活動に心がけたいです。又、新しい会員の皆様と共に活動が出来る楽しみが嬉しいです。

ならやまの景観・環境整備は、参加活動を重ねる度に結果・成果が体験でき喜んでいきます。今後は、地域貢献活動にも目を向けて、シニア生活を味わいたいと考えております。田植え・草刈・自然工作・新人歓迎会、本当に盛り沢山の行事を手伝えるスタッフに成れる事を願うのみです。お陰様で、バードウォッチから始まり池の観察と整備のやり方、草刈り機の操作、ならやま観察路の整備、会報のお手伝いと、皆様にお世話になり、活動を続けさせていただいております。覚える事は、さておき体験で協力してまいります。・・・

新幹事に就任して

辻本信一

「奈良・人と自然の会」との出会いは、2年前シニア自然大学の講座生として教育実習に参加した時に遡ります。ならやまベースキャンプは我が家からも近く、自然豊かな環境の中で明るく元気に活動されている皆様の様子を見た時から卒業後の進路は当会への入会と心に決めておりました。

入って見れば妙に居心地良く、何も分からないまま皆さんに付いて行き怖々触らせて頂いた刈払機を使つての草刈り作業では何事も忘れ無心に成れました。そんなはずではなかったのに、伐採した笹の粉碎にチップー機が導入された時には、何事も経験と頭を突っ込んでいたら、知らぬ間にチップー作業の先頭に立たされておりました。

決して無理無くがモットーの我が会では有りますが、先輩の皆様の頑張る姿に励まされ、ヤングシニア代表としては誰にも負けぬ前向きな姿勢だけは持ち続けたいと思っております。先ずは任期のこの1年、我が会に於いて会の為に何が自分に出来るのか皆様方のアドバイスも受けながらしっかり見極め、与えられた任務を着実に果たして行きたいと思っております。就きましては、これからも御指導・御鞭撻の程、何卒、宜しくお願い致します。

新幹事として思うこと

山中笙子

今年度、新幹事の一人として務めることになりました。その後1カ月、ならやま委員会や幹事会に参加することで、「奈良、人と自然の会」の組織のこと、どの様に運営されているのかが少しずつ分かってきたところです。

「会報誌の編集、印刷、発送」と「ならやま景観整備活動」の景観グループの担当になりました。会報誌については、以前、発送作業を手伝ったことがあります。他の幹事さんとも協力しながら会報誌のより一層の充実を図りたいと思っています。

景観整備活動では、会報の「ならやま花だより」の記事を担当しており、その植物観察の折に気付いたことなどを会員の皆さんと相互に交換する。その事を通して、ならやまで観られる自生植物や希少植物の保護、景観の維持に少しでもつなげていけたらと考えています。

その他にも、活動日の行事や各種のイベントに関しましても、会員、参加者の方々と一緒に楽しみながら、準備から実施へと活動がスムーズに進むよう協力できたらと願っています。

頭の回転と体が付いていくか少々不安のある新米幹事ですが、皆様のご教示よろしくお願い致します。

Monthly Repo. ならやま

◆5月21日(火) 晴れ 4名+5名

第5地区の道路沿いのスギ樹を関西電力が伐採。これでこの地区の整備が可能となった。

◆5月23日(木) 晴れ 56名+5名

吉岡先生に現場で第5地区の整備について意見をいただく。

里山Gは、しいたけ・なめこのほだ木を林内に本伏せ。自転車道・観察路の危険木の処分、薪づくり。

農園Gは、ゴーヤ・サンドマメ・ナスなどの支柱づくり。菜の花の種の収穫。ジャガイモ・サトイモ畑の除草。

景観Gは、彩りの森、ベースキャンプ周辺、ならやま会館前の除草。水路の整備、池のアオミドロ除去。近畿大学の学生がシマヨシノボリを持参・放流、これでタナゴ・ドブガイ・ヨシノボリの繁殖サイクルが完成した。

◆5月30日(木) 小雨後曇り 41名

早朝から小雨が降っていたが、活動開始時には雨もあがり、ホタルブクロの赤紫色も一段と鮮やかであった。

第5地区の整備に向けて、関係者が現地調査を行い、里山Gはスギの伐採を開始。

農園Gは、エンドウ・タマネギ・ニンニクの収穫。田植え準備。

景観Gは、ならやま会館前・ならやま大通りの除草。湿地横の水路整備、池の生物調査。フラワーロードへのマリーゴールドの植え付け。

◆5月31日(金) 曇り 4名

6月6日の田植えに向けて、水田の整備。

◆6月6日(木) 晴れ 59名+30名

第5地区について、スギの伐採、笹刈りを本格的に開始。

梅雨に入ったものの雨がまったく降らないので、

農園、花壇、クヌギ苗圃、佐保自然の森、フラワーロードへの灌水作業に追われる。

自然観察路をパトロール隊の案内のもとにならやま委員会メンバーが点検し、安全性が確認された。

佐保台小学校の5年生が田植え実習。

泥まみれになる子もなく、無事に植えつけが終わった。

残りの田は早乙女さんと田植え初経験者が植えつけた。どちらの田植えが良かったかは稲刈りを楽しみに。



◆6月13日(木) 晴れ 56名+2名

カシノナガキクイムシの被害回避に向けて、ならやま里山林内に、粘着トラップを34箇所配置。

さらに前年度の被害樹について、成虫の脱出防止に向けて粘着紙でグルグル巻き。



第5地区ではスギの伐採、笹刈り作業を継続実施。雨がまったく降らないので、彩の森、佐保自然の森、BCの花壇等への灌水作業に力を注ぐ。雨よ！早く降れ！

減少傾向にあるコクランの分布調査の開始にあたり、会員に協力要請。

◆6月17日(月) 12名+3名

ホタル鑑賞会。午後8時にベースキャンプに集合し、彩の森まで探索。昨年以上に多くのホタルが見られた。

◆6月20日(木) 雨天につき活動中止。

(木村 裕)

里山の今



* ペタキン日記 ⑬ *

羽尻 嵩

ならやま花だより

山中 笙子

6月13日(木) 恵みの雨がもう少し望まれるならやまは、手植えされた田んぼ、色とりどりの紫陽花の花、舞う蛍が私たちの目を楽しませ、ならやま産梅ジュースが喉を潤してくれます。

畑近くでは、英語で「ビーナスの姿見」と呼ばれる北米原産の帰化植物、**桔梗草**が細長い茎に段々に丸い葉を付け、その付け根に桔梗に似た小さな紫色の花を咲かせていました。

茎の下の方には開かずに種子を作る閉鎖花を、そのあと上にふつうに開く花を付け、6mm位の筒形の果実は熟すと薄くなった壁がクルクルと巻きあがり、開いた穴から種がこぼれだす。まるで、姿見のカバーを開けたらのぞき窓の中に種ならぬビーナスが現れそうな、なんてロマンチックで不思議な花でしょう。英語名はそこからついたそうです。花の周りにいた人達から説明を聴いて本当に驚きました。

【草花】桔梗草、クララ、ミヤコグサ、ノアザミ、ギシギシ、ヒメジョオン、ムラサキカタバミ、ドクダミ、ツルアリドオシ、イヌホオズキ、ツユクサ

【木の花】ソヨゴ、センダン、ネジキ、イヌツゲ、ゴンズイ、クリ、アジサイ、ヤマボウシ、シモツケ、ナンテン、フジウツギ、ビヨウバナギ

【花壇】トケイソウ、マリーゴールド、コスモス、ホタルブクロ、ウマノスズクサ、桔梗、ノカンゾウ、ナデシコ、ヘメロカリス

【ビオトープ近辺】ガマ、ハナショウブ



<ビオトープ池考> 最終回

ビオトープ池造りの熱が冷めてきた3つめの理由は、市民の水辺空間に対する関心がビオトープ池から川辺に向いてきたことです。

数年前、八幡の御幸橋から枚方大橋までカヤックで下った時、淀川の水が予想以上に澄んでいることに驚きましたが、市民と行政の取り組みによって、ゴミで汚染され、泡立ち黒ずんでいた各地の河川の水質は年々よくなってきています。維持・管理に手間暇のかかるビオトープ池がなくても、川の水質と水辺が綺麗になったことで、市民が水空間で憩える機会が増えてきました。

明治、日本を訪れたイザベラバードは『日本奥地紀行』で、奥日光の梅雨時の豊かな水に育まれた植生、コケ、シダ、木々の深緑と鮮やかに咲き誇る花々が彩る様子を絶賛し、「東洋のアルカディア(桃源郷)」と評していますが、今後私たちが目指すべきは、日本の伝統的水の生態系・水の文化を復活させていくことです。その為には、ビオトープ池といわれる部分的な水空間を守るだけではなく、その水空間がそれを取り囲む森林と通じ、田畑を潤し、川へと流れ繋がっていく「水のネットワーク」の一部として機能していくことが求められているといえます。魚道の設置などは行政に求めるとして、地域の実情に応じて「水のネットワーク」を広げていくことが今後の私たちの課題だといえます。

☆<タナゴ池の近況>☆

4月半ばには、ペタキンの産卵行動が始る。

5月に入りザリガニ駆除を始める。23日には、近大班がシマヒレヨシノボリ24匹を追加放流。

6月13日、近大班がペタキンの産卵状況を調査。プランターには貝2個が見当たらなかったが、他の12個の貝に約230個の卵が確認された。池はペタキンやヨシノボリの他にモツゴ・ドジョウ・エビ・貝などで更に賑わいそうだ。



ルリセンチコガネ

菊川年明

ならやまにルリセンチコガネがいた。たいへん思いがけないことであった。

昨年10月24日、ならやまのベースキャンプ近くでルリセンチコガネによく似たセンチコガネ類の甲虫を見付け、写真に収めた。だが、ルリセンチコガネがならやまにいるはずはないとの思い込みから体色がルリ色変異の珍しいセンチコガネとして写真を整理していた。

先日、昆虫学者で、とりわけ糞虫の権威者である塚本珪一先生にお目にかかる機会があり「ならやまというところにルリセンチコガネによく似たセンチコガネがいました」と言って、写真を見ていただくと、即座に「これはルリセンチコガネそのものですよ」とのご託宣（同定）だった。

ルリセンチコガネは奈良公園で鹿の糞のお掃除屋（食餌）として有名な昆虫である。ルリセンチコガネという名前はオオセンチコガネのルリ色系のものを指す別称で、正式な和名はオオセンチコガネである。

オオセンチコガネの多くの体色は光沢のある赤銅色で、図鑑には普通この体色のものが掲載されている。ルリ色系のものはその棲息域から紀伊半島型と呼ばれることもある。

オオセンチコガネの体色変異は他に金色、緑色などがあり、キンイロセンチコガネ、ミドリセンチコガネ（京都府南部地域）などの別称を持っている。動物の糞を食餌にしているがいずれもたいへん美しい昆虫である



ルリセンチコガネ

ならやま自然の森・観察路

小島武雄

6月最初の観察は観察路が適切かどうか、ならやま委員会幹部同行でコースの視察でした。まず、問題となっている、私たちが私有地を知らずに通行している事を認識しているかどうか。境界杭の、矢印の示す意味、また県有地の中を通る場合も入るのは良いが道として使うには県に、確認が必要で有る事。

サイクリング道からコースへ入る案内標識については、判りやすい表示は、良いがこれを見て、外部の人が自由に立ち入る事はやはり困る、会員メンバーに判れば良いので、道から少し離れた所に移動するよう指摘される。

コースの急な所の滑り防止で設けた、自然丸太の土留階段は、原状で十分だが、杭が飛び出ている危険という事で、安全を考え杭頭の打ち込み処理を行う事。道しるべとなる、丸太の各ポイント標識と方向→は草に埋もれていますが、よく分かり良いと判断されました。例えば切り株のポイント⑩は、赤岳から赤岳口への方向矢印、そして近くに見られる植物のコバノガマズミのお知らせ（写真1）、各ポイントで同様の標識を設置しています。パトロールでは、コースの途中で道を塞ぐ倒木やら、倒れかけの枯れ木等で通行に支障があり、危険な箇所を確認をしています、これらの障害となる倒木等は、里山グループの方々が、丁寧に伐採片付けを行っていただき、安全に通行出来る様になりました、ありがとうございます。（写真2）

ただ、5月号でお知らせした松山平ピークの展望への道は、危険箇所となりましたので、案内は暫くお待ちを。



（写真1）ポイント⑩ （写真2）歩きやすい道

大和の展望台「龍王山」へ登る！

6月例会 報告

日 時；6月3日（月）9：00～14：30

場 所；「龍王山」585m

コース；J R 柳本駅—長岳寺楼門横—龍王山山頂（南城跡）—長岳寺奥の院—古墳群—崇神天皇陵—J R 柳本駅

参加者；17名

幹 事；塩本 寺田

例会のバラエティー化のため、3年前から企画された軽登山「龍王山」。2年連続して雨にたたれた。一度は台風。

後でわかったことだが、山頂付近にあり「龍王山」の名前の由来ともなっている「田龍王社」は雨乞祈願のお社とか。そのせいかと納得（？）した次第。

さて、ようやく本年は打って変った好天。日差しは初夏の気候。

J R 「柳本駅」に17名集合。天理市トレイルセンター裏の山の辺の道の長岳寺楼門横からしばらく山麓の農地の端を歩いた後、急な登山道に入る。皆自分のペースで黙々と登ってゆく。



この道は昔「長岳寺奥の院」の参拝道とかで石の地蔵像が多い。

平坦な気持ちの良い新緑樹林の道から急な階段を上りきると天理市から続く舗装道路に出る。

そこから15分ほどで、「龍王山」山頂（南城跡）に到着。標高586mの頂きから眼下に広がる奈良盆地と大和三山、背景には金剛、葛城、二上山等が雄大にそびえる。山上はこの地に覇をとえた十市氏の南城跡ともなっている。

昼食後、高橋さんから二等三角点の説明を聞



かせていただき、薄暗がりの枯れた樹林の急な道を下山開始。途中「長岳寺奥の院」へ立ち寄る。本尊は不動明王の立派な石仏。付近にはお堂の跡があり、墓碑なども散在していた。

しばらく行くと有名な「龍王山古墳群」の中を通る。総数600基に及ぶ古墳と横穴があるとか。

入口が小さい一つの古墳に豊島さんが入ると蝙蝠が一匹飛び出してきて皆びっくり。中は数人の大人が立っている大きな古墳の空洞となっていた。

ここから道は平たんなのどかな清流沿いの林道歩きとなり、山の辺の道に合流する。



崇神天皇陵の池の横を通り、「黒塚古墳」を見学してJ R 柳本駅へ。結構変化に富んだ山行ハイクの日であった。

例会としては珍しい軽登山であったので、参加者に感想を寄せていただいた。

—『中腹からの冷氣は街では味わえないものだった。』『この程度だったらまた機会があれば参加したい。』『山頂は展望が開け、涼しく爽やかな風に吹かれて大変気持ちよかった。』『山は何と言っても展望。比較的ゆっくり登れてよかった。』『ちょうど手ごろな快適な山歩きだった。北城跡に寄らなかったのは残念』等々。—（寺田 孝）

『法隆寺と藤ノ木古墳』

歴史文化クラブ5月研修会



《法隆寺南大門前にて》

5月の研修会はいかるがの里「法隆寺」と「藤ノ木古墳」である。24日(金)9時30分にJR法隆寺駅に集合し、一路法隆寺へ向かって歩いた。当日は快晴であり、28名の会員の参加を得た。門前の松並木の参道を歩く、近頃はバスや車の参拝客が多いのであまり利用されないが中々趣のある道である。

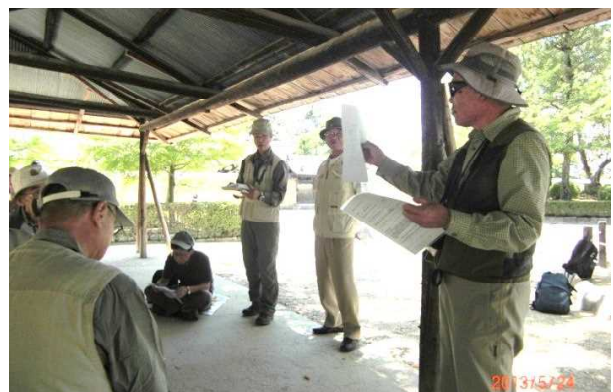
南大門前の広場で法隆寺の概要を杉本世話人より説明する。寺伝によれば推古15年(607年)に聖徳太子と推古天皇により創建とある。書紀によれば、その後天智9年(670年)に全伽藍焼失したとの記録がある。再建に関しては記録がなく、学者の間で焼けた、焼けなかったと論争になっていた。しかし、昭和14年の南大門前の若草伽藍の発掘で焼けた瓦等が出土したため、焼失後700年ごろ再建されたとの説が定説となった。

中門西の入口から入ったが、丁度修学旅行のシーズンで小・中学生が多くゆっくり見て回れなかったのが残念。金堂の釈迦三尊を始め、多くの国宝の仏像や建築物があるが、私が一番好きな仏様は「夢違観音」である。50cmほどの小さな仏像だが、実に美しく豊かな体躯である。名前の通り悪い夢を良い夢に変えてくれると言われている。法隆寺は官寺ではなく私寺で太子亡き後、山背大兄王も入鹿に滅ぼされてしまいスポンサーを失った。平安初期には衰退して寺は荒れてしまうが、太子信仰が高まり太子の徳を慕う民衆が太子講を組織し寺を支えた。

法隆寺の西には西里という地域があり宮大工の集団が住んでいる。寺の柱を良く見ると補修の跡が数多く残されている。このような匠や民衆の力で法隆寺は1300年の長きにわたり護られてきた。

江戸時代には五代将軍綱吉の母・桂昌院による多額の寄進が寺を支えた。大講堂の前に桂昌院が寄進した葵の紋入りの大灯籠がある。

夢殿を見学して、西院の休憩所で昼食をとる。昼休みの後、川井代表から聖徳太子の人物像について、古川氏より藤ノ木古墳についての話を聞く。



《藤の木古墳の説明》

法隆寺より徒歩7分のところにある藤ノ木古墳を見学する。古墳は直径50mの円墳である。法隆寺の管理下にあり中世には尼さんの庵がありお墓を守っていた。そのため、盗掘をまぬがれ1985年からの発掘調査時に金銅製の馬具や靴など豪華な副葬品(全て国宝)が発見されている。被葬者については、古墳が築造された6世紀後半という時代、貴人を葬る家型石棺、2体の成人男性の骨、豪華な副葬品から、蘇我氏と物部氏の仏教をめぐる宗教戦争で物部側の皇子として馬子に殺された穴穗部皇子と宅部皇子とみられている。しかし、穴穗部皇子と同母弟崇峻天皇であると主張する学者もいる。

古墳の見学の後、斑鳩町営の藤ノ木古墳資料館で、古墳の副葬品、石棺のレプリカや発見時の埋葬の状態の模型などを見学して、研修会は終了、資料館前にて一同解散した。資料の準備や当日の段取りなど中心となってお世話いただいた富井さん有難うございました。

(杉本 登)

元気っ子・田植え初体験

◇◇◇佐保台小ファーム（5年目）

佐保台小ファーム5年目は、19名の“元気っ子”が水稻栽培にチャレンジ。今年は北側に赤米を南側には紫黒米を植え付けた。南北水田の真ん中に水路を通し、水管理等も便利になった。本格的な畦捏ねや畦板シートの敷設等も行い、例年にない早い梅雨入りや今年の猛暑による生育への影響等を考慮し、担任の先生と日程調整。6月6日、曇り空で暑くもなく絶好の田植え日よりとなり、元気っ子達の声が、ならやまにこだました。

田植えの要領について説明を聞き、一人当たり約150株の植え付けにチャレンジした。初めは戸惑いがちだったが次第に手つきや足取りも慣れ、手際よく田植えが進んだ。

早速、初めての体験について感想文を寄せてくれました。

- ◇ 田んぼに入った時、「とても気持ち悪いな！」と思ったけれど、次第に慣れて最後にはとても気持ち良く楽しかったです！
- ◇ はじめは田んぼに入るなんていやだなと思った。でも少し経つと気持ち良くなり、稲を植えるのは楽しくなりました。
- ◇ 田の神、山の神について詳しく調べてみたいと思います。7月に来た時にどれだけ成長しているかが楽しみです。
- ◇ 生まれて初めての体験でした。簡単だろうとおもっていましたが、意外と難しかった。
- ◇ 自分たちが植えた稲が、秋になって稔り、おいしいお米になるんだなあと思うと、とても楽しみです。
- ◇ 少し疲れたけれど、植え終わった時は、とてもすっきりとした気分になりました。
- ◇ 苗を3本持って泥に入れると苗は立ちました。思わず「やったー」と叫びました。
- ◇ 最初の半分程は上手く植えられませんでした。途中から少し深く植えてみると倒れなくなりました。もう一回田植えをしてみたい！と思いました。

- ◇ 田植えをしてくれた人が、隣の田んぼで田植えをしているのをみていると、真っ直ぐで植え方の速いのには驚きました。
- ◇ 植え終わった時には、「やったぞ！」「もっとやりたいなあ！」など、達成感がわいてきました。
- ◇ 田植えの土が温かく柔らかかったので、ずっと田んぼの中にいたいと思いました。
- ◇ バラタナゴ（♂）を見せて貰った。本当に綺麗な色をしていた。
- ◇ 泥の中で足を動かせば動かすほど沈んでいき、上は柔らかいけど下は地獄みたいな感じで足が抜けなくなっていました。
- ◇ 最初のうちは転びそうになったり、苗が斜めになってしまったり大変でした。でも次第に慣れてくると綺麗にできるようになり、嬉しくなりました。
- ◇ 7月11日の成育観察が待ち遠しいです。3本が何本になっているのか楽しみです。



どきどきわくわくしていた様子など、初めての体験から感じたことを率直に表現してくれています。そして、これからの体験観察学習を楽しみにしている様子などが、どの感想文からも伝わってきます。

7月中旬に生育観察、秋には稲刈り、稲架け、脱穀、粳摺りなどが予定されており、これらの体験をきっかけにして、子ども達が農業に対して興味関心を抱いてくれるものと確信しています。

（鈴木末一）

平城宮跡自然観察会

自然教室チーム 辻本信一

6月11日(火)、自然教室チームは互いの研鑽と自然に対する造詣を更に深める事を目的に月一度の観察会を平城宮跡にて実施致しました。

当日は台風接近の影響による不安定な空模様にも拘らず自然教室チームのメンバーを中心に12名が集い活気あふれる観察会と成りました。



平城宮跡資料館近く佐伯門前では行き成りコヒルガオが優しげで可憐な姿を見せてくれメンバーの平岡さんによるコヒルガオのインプリプレイで観察会の幕が切って落とされました。

説明通り鉾形で直角に張出した葉身の基部に小さな分裂を見つけ一同納得。更にならやまでよく目にするサツマイモも同じヒルガオ科と聞き驚きの声。



(コヒルガオ3兄弟?)

代表の倉田さんからは平城宮跡はイネ科植物の宝庫として夙に有名であることが紹介されイネ科植物観察のポイントを代表的なスズメノカタビラの図解をもとに教えて頂きました。雄蕊、雌蕊もしっかり付けルーペで垣間見た世界は紫色の色彩も交え私達のこれまでのイネ科のイメージを一新させました。



(説明に聞き入る参加者)

つい先週まで黄色い烏帽子の様な可愛い花を咲かせていたミヤコグサは長い豆果を一つの軸に複数実らせ、まるで傘の骨組の様で我々を驚かせました。またシロツメグサの小花の奥にはスズメノエンドウにも似た小さな豆果がハッキリと見られ感動を覚えました。



(風にそよぐブタナの黄色い花)

辺り一面に黄色い花を咲かせ風にそよぐブタナの光景に一同ウットリ。その横では自慢げに黄色の雄蕊の葯を目立たせているワルナスビの白い花。ひとつひとつ取り上げて行けば切りの無いくらいやはり平城宮跡は野草の宝庫でした。

朝10時に始まり昼2時半までの4時間近くの観察会は終って見れば30種近くの植物との感動の出会いの時間と成りました。この感動を次回は皆様とも分かち合いたいと思います。次回観察会には皆様も是非奮って御参加下さい。自然教室チーム一同、心よりお待ちしております。

自然あそび体験を！

育英小学校

5月28日(火)当日は、雨の予報で大変心配しましたが、朝のうちパラパラと降った雨も、観察会が始まる頃には止み、予定通り外で観察会を実施しました。

育英小学校の観察会は、授業として行います。先生の「子どもたちに自然あそびの体験をさせたい」の思いを受けて、内容を考えました。

1年生の観察のポイントは5つ。アオキの葉っぱに字を書いたり、ヤエムグラの葉っぱを勲章に見立てたり、タンポポの不思議な暮らし方を学んだあとは、花柄管で笛を鳴らして遊びました。3つの草や木の匂いを嗅いで、好きな匂いと苦手な匂いを体験し、虫や小さな動物も同じだろうと感じました。最後は夜に眠ったり、遠くに種を飛ばすカタバミの葉っぱで10円玉を磨きました。ピッカピカになった10円玉にみんな大喜びでした。

2年生は、5つのポイントの観察と押し花でしおりを作りました。カエデの種を飛ばして、プロペラのようにクルクル回りながらなおちる様子に大喜び。サクラの葉っぱの蜜腺を観察し、アリとサクラが助けあって暮らしていることを知りました。草原では、幾種類もの草が仲良く暮らしていました。カラスノエンドウの鞘を開いて、笛を作りました。難しかったけど鳴れば最高！ 鏡を使って空を見ながら歩く不思議な散歩は怖かったけど、ワクワク、ドキドキ、1番人気のポイントでした。最後に、スタッフが作った野草の押し花で、世界に一つしかない可愛くて個性的な「しおり」が出来、とても喜んでいました。

自然に関心を示す子どもたちが多く、知識も豊富で驚かされながら、楽しい観察会を終えることができました。

(平岡 久美)



自然と仲良くなろう！

佐保台小学校

6月12日(水)佐保台小学校で「自然となかよくなろう」をテーマに校庭の植物観察会を実施しました。

校庭にある普段はあまり気に留めない植物を観察しようというものです。

放課後教室に集まる1年生と2年生が主体の31名の子どもたちが参加してくれました。

校舎のまわりに観察ポイントを5ヶ所設けていよいよ観察開始です。

シロツメグサの小さな小さな花の数を数え

たり、カタバミの葉っぱで10円玉を磨いたり、クロガネモチの葉に字を書いたり、

葉巻笛を吹いてみたり、クスノキ、ヨモギ、ミカンそれぞれの匂いを嗅いでみたり、カガミを使って空中散歩をしたりと遊びの要素を取り入れた場面を多くしたことで子どもたちは夢中になって楽しんでいました。

植物観察を終えたあと、簡単な自然工作として押し葉(花)のしおりを作りましたが、30分程の時間でかわいらしいしおりを3枚も作

った女の子もいました。また、大きな葉っぱを何枚も台紙からはみ出させて貼り付けたユニークなしおりもありました。

子どもたちは自分で一生懸命に作ったしおりをお土産に持ち帰りました。

(高本 実男)



やさしい
昆虫講座

③③

「みなさま、お騒がせしました」
毛虫より

木村 裕

今年は毛虫の当たり年、庭木、垣根、公園の樹、何処へ行っても毛虫がぞろぞろ。新聞、ラジオなどマスコミでは、専門家？と称する方々がその多発原因について迷解説してくれています。もっともらしいことを言っていますが、原因不明が正しい答えかと思います。

マスコミでは毛虫軍団が一斉蜂起したかのように大騒ぎしていますが、数多くいる毛虫仲間のひとつ「マイマイガ」のみが大発生しているのであって、他の毛虫類は決して多くはなく、いつも通りの発生です。はた迷惑な！この大発生がずっと続くように思われている方も多いようですが、今年は6月中旬をもって終わりです。

このマイマイガは、マツカレハ（マツ）やオビカレハ（ウメ・サクラ）などととともにカレハガ一家に所属し、みんな毒刺毛を持っています。この毒はそれほどきつくなく、少し赤く腫れ、少しかゆい程度で数日後には治癒します（もちろん例外はあります）。この毛虫類が発生する期間はそれぞれ年に1ヶ月程度でその発生時期は種類ごとに決まっています。

マイマイガは幹上に産み付けられた数百個からなる卵塊の状態越冬し、5月の連休頃に一斉に孵化します。彼らはカレンダーを持ってはいませんが、毎年孵化する時期は間違えないようです。丁度この頃は木々に柔らかい葉が開いたところで上質の餌が手に入ります。大勢の兄弟たちと連れ持って若葉に齧りつきましますので、卵塊のあった樹でまず被害が現れ、しだいに周りの樹に広がって行きます。

ツツジ、ウバメガシ、サクラが大好物ですが、食べ物に関してはあまり好き嫌いを言わないようで、今年のように発生が多いと、広葉の樹なら何でもいいよと何処にでも姿が見られます。大勢の仲間の中にはお茶目なやつもいて、樹の下を通る女性を見つけると糸を操ってすると降り、「やあ」「こんにちは」などと言って驚かせて悦にいらっています。どじな奴は男性の前

にぶら下がり、「何だ！お前は！」と軽蔑され踏み潰されています。このように糸でぶら下がり風でゆれているので「ブランコケムシ」というあだ名がついています。

美味しい餌をたらふく食べ、6月になると十分に成長し、大きいものでは人差し指くらいになっています。このでかいのはメスになる毛虫です。オスになるのは半分くらいの大きさしかありません。蚕のような立派な繭は作らず、とことん手抜きし、葉や枝に荒く糸掛けして、外から丸見えの状態下で蛹になります。

6月中旬頃に成虫の蛾になりますが、オスはモンシロチョウくらいの大きさで、全身茶色に統一しています。一般的に蛾は夜行性ですが、このオスに関しては夜ではなくて昼間にメスを求めて蝶のように忙しく飛び回っています。一方メスの蛾はその倍くらいはあり、やや太り気味で、白いドレスを着用し、飛び回ることはあまりしません。交尾後のメスは幹や枝に数百個の卵を一塊にして産卵し、その上を自分の体毛で覆い隠します。

サクラでは毛虫が8月にも多発しますが、これは別の仲間で、毒刺毛は持っていません。



▲ [幼少の頃]



▲ [成長したお嬢さん]

茗荷の子香りを添へておらが蕎麦

古川祐司

旬の香りがマッチングする。美味、美味。
作者はソバ打ち大将。自前の蕎麦に満足気。

この子らと一期一会の田植えかな

古川祐司

佐保台小の子供たちと恒例の田植えイベント。
稲作文化を次世代に伝える。人生の糧として貴重な体験。

夜回りでおタルの数を下調べ

大澤教男

蛍狩りの下検分。下見とは言えホタルの乱舞を
結構楽しむ。ご苦労さん。

田の神も上手上手と田植の子

井戸八穂子

初体験の田植。たくしあげた二本足もしつかりと。
神は人なり。見守る大人たちは生き神様か。
あつと言う間に早苗が風に靡く。

自然俳句

監修 川井秀夫

蛇にあふ先頭の声しんがりに

川崎和江

自然観察会のひと幕。先頭のリーダーにはリスクが多い。
クモの巣、トカゲ、雀蜂など。倒木、窪地なども。
蛇に遭遇していつの間にか殿に。笑えない怖い話。

畦の辺に水無月薊一二本

鈴木末一

夏薊として季語だが、水無月とひとつにした所が味噌。
夏のアザミは、強く逞しい。作者の様に。

いかるがの聖地に噓せる夏日かな

川井秀夫

五月例会。法隆寺を訪う。初夏の照りが厳しい。
修学旅行の大集団に仏さんも息苦しく見える。

露地植えの嘘のトマトを信じてる

川井秀夫

露地トマトは難物と言われる。農作グループの果敢な挑戦。
常識を破り、世評を嘘だと言わせたい。





梅雨しぐれ



谷川 萬太郎

手を伸ばせば届きそうな垂れ込めた雨雲の
きつと輝く夏の強い光の精が先を急ぎながら
待ち焦がれる新しい季節の影絵が揺らめき
控えめな梅雨しぐれは戸惑いを隠せぬまま
哀しみに肩を落とし萎れる草花は頭を垂れ

恵みの雨も潤いもなく生気を失くした草木
水浴びがしたいと駄々を捏ね揺れる稲穂
俄かに空が暗くなり光の不連続線が走る
生まれ出ずる雨の滴が後から後から湧いて
雨だれの向こうに待ちわびる何かを信じ

そう遠くない虹の橋の向こうには
私たちを迎えてくれるに違いない
むせ返る暑さにのども枯れ果てて
出番を忘れたかのように雲の中へ
祈る気持ちが届くだろうかあの空に

田畑の土には地割れが走り怯える
曇空を見上げて呟き雨乞いをする
稲妻が消え雷鳴が雨雲を突き破る
降り注ぐ雨の精が踊りだしリズムよく
真夏の顔が恋しい草花を出迎える



「がっくり」

竹本 雅昭

桧甲：俺で最後のような、やっと活躍
の時がきたな。

桧乙：何が？

桧甲：何がって、裏の豪邸みたいのが建
てられるんやろ、そうしたら皆も
床柱や土台になってお役に立てる
と言うもんやないか。

桧乙：違う違う、そんなえゝ話やあらへ
ん。人々の話やと薪小屋に利用さ
れるらしい。だからこゝで皮をは
がされて乾燥するんだとよ。

桧丙：家が建つんやったら、とっくに黄
色い機械がうなって整地が進んで
るがな。

桧甲：そうだったのか・・・そうだよな。
ずっと手入れしてもらってない
し、やっと笹や藤蔓から解放され
たと思ったのに。なーんやそうか・・・

桧乙：おいおいそんなに落ち込んでも
気楽に人々と楽しんだらえゝやんか。

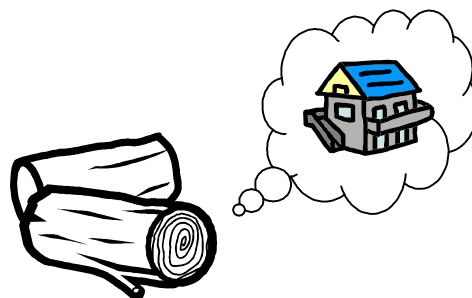
桧丙：そやそや、竹やアンカーボルトとガッ
チリスクラムで薪作りを自然の中で
のんびりしたらえゝがな。

桧甲：でもな、俺の先祖には立派な屋敷で光
るくらいに大事にされてるって聞くし
な。あゝ・・・もう・・・

桧乙：まあまあ気持ちはようわかるけど、仲
間も大勢いることやし元気ださな。

桧甲：ありがとうよみんな。

“One Please”





隠れ古社寺 ひとり旅 ㊦

歴史文化クラブ

額安寺と忍性墓

川井 秀夫

空梅雨が続き蒸し暑い。樫原線平端駅に降り立つ。

5月に歴文クラブの定例行事に法隆寺を訪ね聖徳太子の事績に触れ、熊凝精舎の在所、額安寺が妙に気になり訪ねてみた。

活気のない町並みを2軒ほど歩くと、町外れの田園風景が広がる。やがてこんもりした森が視野に入る。門前は整備され、何処かの大家のお屋敷を思わせる。伝承による熊凝山の山号をもつ額安寺である。



古文書によると太子は精舎を朝廷に献上し、欽明天皇が移転させて日本最古の官寺 百済大寺が誕生する。やがて藤原京に移り大官大寺と改称、さらに平城京へ移建して大安寺となり法灯を継ぐ。

額安寺を熊凝精舎とする説には批判もあるが、境内からは熊凝説を裏付ける飛鳥時代の瓦が出土している。

住職の話では、かつて3万6千坪の広大な寺域を誇り、七堂伽藍を配し、今の法隆寺に匹敵したと言う。地理的には大和川と佐保川の合流点に近く、水運の要衝として難波津から大陸の文物が平城京に運ばれ、いわば輸入文化の先端地であった事が解る。

寺は土地の豪族、額田部一族の氏寺とも言われ、伽藍の整備は一族の入唐僧 道慈が尽力し、仏教興隆に努めたとされる。

平安期には衰微したが鎌倉期に復興、その原動力になったのが西大寺の叡尊とその弟子、とりわけ地元出身の忍性と言われている。

現在、何度かの兵火に遭い、本堂の一字を残すのみとなり、明治中期には廃寺に等しくなったが、飛鳥時代の法灯を守り、昭和後期に補修作業が進み今日の姿になる。

本尊は十一面観音菩薩像。根本本尊は日本最古(757年頃)の虚空蔵菩薩半跏像である。毎年10月に開扉されると言う。

閑話休題。

額安寺の寺号の由来。

推古天皇が、おん額に傷を痛まれた折、熊凝の精舎に祈願されたところ、跡形も消え快癒され「額安なる寺」の寺号を賜ったと伝えられる。

近くに寺内社の推古神社が土地の氏神として鎮座する。

更に進むと竹林を背景として忍性菩薩の五輪塔が一際大きく、歴代上人の供養塔が八基並ぶ。忍性と言えば、奈良北山十八間戸の



ハンセン病患者の宿舍を慈善事業として創立、また行基を敬慕し遺言により行基の眠る竹林寺に分骨埋葬されたと言う。

先述した広大な寺域が何故こんなにも奪われたのか。周辺は住宅が入り込み、近くの工場団地からは金属音が絶え間なく聞こえてくる。

古文化の喪失は、ますます日本社会を軽くして行く。行政の良識、庶民の意識、文化人の卓見、宗教人の自覚、マスコミの報道など、一凡夫として心が痛む。

帰路につく。午後4時、日が高く夏至が近い。

早くねぐらに帰り、風呂に入って冷奴にビールと洒落てみるか。それがベター、それが最高。

絵画

(勝田均) 「灯台暮色」

(勝田緑) 「語らい」



(勝田均) 「灯台暮色」



(勝田緑) 「語らい」

Gallery ならやま

クラフト作品

(大沢教男)

- ① 鳥・材料別4羽
- ② アメリカフー・ダチョウ
- ③ タイサンボク・鶴
- ④ マツカサ・ダチョウ
- ⑤ ヤシヤブシ・アヒル



鳥・材料別4羽



アメリカフー・ダチョウ



タイサンボク・鶴



マツカサ・ダチョウ



ヤシヤブシ・アヒル



福田 美伸

蕎麦の味

④

そばはもともと粘りけがないので、うどんのように生地をねかせる必要はないが、帆布のようなものに包み、足でよく踏むとよい。丸くまとめて麺棒で延ばすわけであるが、生地の中に空気を入れないように注意する。麺棒に巻き付けたときに力を入れて延ばせばよい。何度か方向を変えて薄く均一で長方形に延ばすとよい。

長方形なら、そばの長さを一定に切り揃えることが出来るからである。

生地は麺棒に直接当る部分が薄くなり、一番外側が厚くなるので、巻き直して延ばすことが重要である。プロは2～3本の麺棒を同時に使い、素早く均一に延ばしてしまう。薄く延ばすとき部屋の湿度が影響するので、特にエアコン等の風は禁物である。

蕎麦切り包丁の刃渡りぐらいに、薄く伸ばした蕎麦を重ねて切るわけであるが、細く均一に切るには慣れるしかない。また十分に打ち粉をまぶしておかないと、蕎麦がくっついてしまうので注意が必要。なお打ち粉は蕎麦の真っ白な部分だけのものを用いるとよい。以前にそばを作ろうとして、イタリア製のパスタを作る機械を買ってがんばったが、所詮無理な話であった。長くつながっているようであったが、短く切れてしまった。

茹で方も大変難しい。家庭の場合、普通の太さでそばを解しながら全部入れて、約1分を限度としたい。そば屋の茹で方は、大釜で少しのそばを強火で約30秒程度で茹で揚げている。

素人が打ったものは、蕎麦が浮き上がって来るまで、決して箸で混ぜてはいけない。短く切れてしまい、スプーンで食べるはめになる。

家庭では、大きな鍋で沸騰しているところにそばを解しながら入れ、沸騰後さし水をする。再沸騰前に素早く揚げる。固めに茹で揚げるのがポイント。腰を出すために冷水でよく洗い、よく水きりをする。

麺つゆは沢山売られており、味もいろいろであるが、鰹節、煮干し、昆布、酒等でおおいしく作るに限る。自分の味を大切にしたいものである。

こだわればきりがないが、おいしいものをよりおいしく食べたいと思っている。いずれにせよ地粉を使った手打ちそばは最高である。

食べ方としてざるそばがよい。喉越し、そして蕎麦本来の味、香りが一番よくわかる。そば料理は、日本で完成された世界に誇れる料理であると確信している。

富山県利賀村で「世界そば博覧会in利賀」が、1992年8月7日から9月6日まで開かれるので、是非見に行きたいと思っている。蕎麦についてももう少し解るようにもなり、もっと上手に蕎麦が打てるようになるだろう...と今から楽しみである。(1991年10月)

(完)



ならやま景観整備

活動予定日

7月	4(木) 11(木) 18(木) 25(木)
8月	1(木) 8(木) 22(木) 29(木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に
広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

アクセス



- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8:27発、高の原行き（平日）
- ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8:38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）
- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは
各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕



7月4日

- <里山Gr>第5地区通路整備および竹林周辺整備
第2皆伐実験地薪小屋作り・薪作り
- <農園Gr>水田・畑周り草刈り、人参播種
水田に米糠散布
- <景観Gr>佐保自然の森水遣り
第5地区草刈り、ゴミ拾い
機械整備、調整
日陰植物草取り
矢車菊・パンジー撒収
ヒマワリ播種
水質調査、池の整備

7月11日

- <里山Gr>第5地区通路整備および竹林周辺整備
第2皆伐実験地薪小屋作り・薪作り
カシナガトラップ設置・調査
「山の日・川の日」出展準備
- <農園Gr>茄子の枝整理・誘引・追肥
南瓜の枝やつるの整理・追肥
- <景観Gr>佐保自然の森水遣り
第5地区草刈り・A地区草刈り
コスモス播種(佐保)、山野草園草引
池の整備、ならやま池水生生物調査

7月18日

- <里山Gr>第5地区通路整備および竹林周辺整備
第2皆伐実験地薪小屋作り・薪作り
「山と森林の月間」協賛イベント準備
- <農園Gr>水田土用干し
堆肥づくり
- <景観Gr>佐保自然の森水遣り
第5地区草刈り・倉庫整理
ハヤト瓜杖 酔蝶花種播き、
コールラビ収穫
池の整備

7月25日

- <里山Gr>第5地区通路整備および竹林周辺整備
第2皆伐実験地薪小屋作り・薪作り
カシナガトラップ設置・調査
「山と森林の月間」協賛イベント準備
- <農園Gr>水田灌水
- <景観Gr>佐保自然の森水遣り
機械整備、調整
田んぼ周り草刈り
アジサイ剪定、春花整理、草取り
池の整備、ならやま池水生生物調査



行事案内 part I

7月例会のご案内

「赤目四十八滝 滝めぐり」

7月例会は、冷氣あふれる滝めぐりです。

赤目四十八滝は「室生赤目青山国定公園」の中にあり、古より山岳信仰の聖地であり、溪谷とその周辺地域は野生動物と植生の宝庫です。滝への入り口付近には飼育・展示施設の日本サンショウウオセンターがあります。

赤目四十八滝にはそれぞれユニークな名前が付けられており、特に有名な滝は・不動滝・千手滝・布引滝・荷担滝・琵琶滝の赤目五瀑で、日本の滝100選にも選ばれ、雄大な滝、芸術的な滝が次々と現れます。平成の名水100選にも選ばれています。

滝から放たれるマイナスイオンや緑の木々からこぼれ落ちるフィトンチッドに癒やされながら、往復7kmの川べりの木陰を歩きます。途中数カ所急な階段がありますので、靴は軽登山靴か凸凹のある滑りにくいものを履いてきてください。皆様のご参加をお待ちしています。



日時：7月23日(火)

集合：近鉄赤目口駅改札口前 9:50

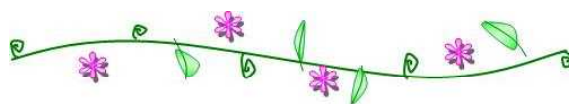
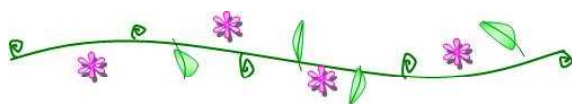
電車：大和西大寺8:38→8:59大和八木9:08→9:34赤目口

バス：駅前10時発「赤目滝」行乗車(10分)

入山料：300円

お得情報：「赤目四十八滝溪谷の自然探勝切符」を買われると電車・バス往復と入山料がセットになり割安です。(特急券窓口で)

担当：羽尻
青木



7月歴史研修会

佐紀盾列古墳群と松林苑・超昇寺跡を訪ねる！

◆集合日時・場所 7月16日(火) 10:00

近鉄京都線「平城」駅、北東側出口

◆コース：神功皇后陵古墳→成務天皇陵古墳→日葉酢媛命陵古墳→佐紀神社→隆光大僧正墓→平城天皇陵(市庭古墳)→バス停「平城宮跡」

附近(昼食)→葛木神社→磐之媛命陵古墳→コナベ古墳→ウワナベ古墳→「新大宮」駅

◆電車：近鉄京都線・平城駅(普通停車) 八木(急行)9:15→→大和西大寺9:35

(普通・京都行)9:41→平城9:42

9:56→ 9:58

◆持参品：昼食、飲み物、資料、雨具など

◆担当：岩本先生

◆問合せ：古川

◆備考：当日が猛暑とか、雨天とかになれば、バス停「平城宮跡」や「航空自衛隊前」での解散もあります。また、「超昇寺跡」・「松林苑」は、日葉酢媛命陵古墳→佐紀神社→隆光大僧正墓の通過地点での説明になります。

※サイクリングで全国行脚されている火野正平さんが、成務天皇陵などを訪問されているのが放映されていました。奈良の文化財の魅力は、なんと言っても「歴史的な風景」であるとお話しされていました。

皆様のご参加をお待ちしています。



行事案内 part II

8月例会案内・夏季研修会

山門水源の森探索

& 国宝十一面観音拝観(渡岸寺観音堂)

- ◆日時：8月2日(金) 雨天決行
(警報が発令された場合には中止)
- ◆目的地：山門水源の森&渡岸寺観音堂
- ◆集合：近鉄京都線高の原駅西側ロータリー
- ◆集合時間：午前8時(厳守)
- ◆費用：4,000円(当日徴収)
- ◆定員：28名、先着順(7月15日締切)
- ◆申込方法：メールにて受付
- ◆申込先：鈴木末一Mail:kouhou@naranature.com

- ◆日程：高の原駅前→渡岸寺観音堂→(昼食)
→山門水源の森→道の駅→高の原

- ◆帰着時間：午後6時30分頃

- ◆担当：豊島すみ子・鈴木末一

※期限前でも募集定員に達した時点で、締め切らせていただきます。お早めに申し込んでください。お待ちしております。



渡岸寺観音堂の十一面観音は、日本全国に六体ある国宝十一面観音の中でも最も美しいとされる日本彫刻史上の最高傑作といわれ、祈りの仏にふさわしい慈愛に満ちたお姿の観音さまです。

「日本水源の森100選」＝「山門水源の森」

森と湿原が奏でる三つのハーモニー

- ◆暖帯のアカガシ林と温帯のブナ林が隣接しており大変珍しい森。

- ◆森の中心に山門湿原があり、近畿でも珍しい高層湿原で貴重な植物生育。

- ◆生物の多様性に富むビオトープの里山。

生物多様性の保全活動を実践するため必要不可欠な事項について短時間ではありますが、学ぶことができればと思います。

なお、藤本秀弘氏(京都東山高校元教諭)に講師をお願いしています。

奈良学クイズ



【問】次の絵画は、県内のある寺に所蔵されているものの部分写真です。その特徴は、法量の大きさ、図柄の精緻さ、各場面の描写の素晴らしさ、内容の豊かさは他に例を見ません。9幅の軸から構成されていますが、全体が1枚の絵となっています。



さて、この絵画の作者名・寺院名をお答えください。

【応募要領】などは、P.21をご覧ください。

自然教室チームだより

7/3 矢田丘陵の自然観察会

昨年11月に指導していただいた御宮知伸彦さんに、再度大和民俗公園近辺の初夏の自然観察を指導していただきます。昨年同様 多彩でびっくりするような自然観察を楽しみましょう。

自然に関心のある方なら、どなたでも楽しんでいただけたらと思います。自然教室チームのスタッフはもちろん、多くの方にご参加いただきたくご案内いたします。



1. 日時：7月3日（水）9時～14時の予定
（サマータイムで実施）
2. 集合場所：大和郡山市 少年自然の家入口
近辺（〒639-1058 大和郡山市矢田町574）
＊県立大和民俗公園駐車場から更に300mほど進んだところ
3. 持参するもの：食事、飲み物（多い目に用意）、雨具、筆記用具、あれば図鑑とルーペ
4. アクセス：奈良交通バス（72系統）で矢田東山下車 徒歩20分
＊近鉄郡山駅からJR小泉駅東口行…8時05分、25分（乗車12分）
＊JR小泉駅東口から近鉄郡山駅行…8時00分、15分（乗車17分）
なお、車の場合は自然の家の前の駐車場、または大和民俗公園駐車場を使用
5. 雨天の場合の判断：会の基準による。（前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率が午前で60％以上は中止）
6. 担当：倉田



子供と共に自然観察を楽しむための講習会

（インタープリテーション入門講座）

最近の子供たちは自然に接することがとても少なくなっていると言われています。私たちシニアの世代は自分たちの子供時代を思い出し、少しでも子供たちが自然に接するように応援をしていきたいものです。



私たちのそれぞれの活動の機会を通して、子供たちが自然の不思議や魅力に接し、自然に親しむ、自然が好きになってもらうことができれば素晴らしいことでしょう。

そうした時に少しでも役に立つ自然観察の進め方について講習会をいたします。五感を使った自然観察や自然遊びを中心に展開します。

皆様のご参加をお待ちしています。

1. 日時：7月9日（火）10時～15時
2. 場所：ならやまベースキャンプ
3. 対象者：小学校の「校庭の自然観察会」を、児童と一緒にしてみたい方
また、インタープリテーション活動に興味をお持ちの方
4. 内容：①子供に対する自然案内の仕方
②自然遊びの紹介
③自然工作の実習 など
5. 持参するもの
昼食、飲み物、メモ、雨具など
6. 担当：自然教室チーム
7. 申込：希望者は7月5日までに下記まで、ご連絡ください。
倉田 晃

予告：ならやま昆虫観察会について

8月7日（水）10時～12時木村さん菊川さんの指導で昆虫採集とその同定を行います。奮ってご参加ください。（詳細は8月号）

奈良学クイズ・続

- ◆ 奈良学クイズ6月号の正解は、
【問1】葛飾北斎 和州吉野義経馬洗滝
【問2】百済寺 広陵町
【問3】アインシュタイン 奈良ホテル
※正解者は5名でした。(景品は7月に)

① メール又はFAX



- ② 締切日:7月3日(水)必着



♪ ワールドカップ本大会5年
連続出場が決まった時、渋谷交差点のサポーター達に、秩序
呼びかけた若き警察官の「言葉力」、
「性を保ち合う呼びかけ」など、一
聞き、古稀を迎えそれなりの社会
を重ねてきた積もりであったが、学
びさと自分自身の未熟さを痛感さ
た。一生、勉強、勉強。

♪ 義務を果たす前に権利の主張が先立つ社会、このままで良いのだろうかと…。

「ならやま」は癒しの空間として定着。

「エアポテト」(宇宙芋)が元気に育っています。興味のある方は、是非「なやまのフィールド」へお越しください。

境 寬

2010年7月の広報誌の表紙にペン画を掲載してとうとう4年目に突入、会員の皆様には、そろそろ飽きてきたのではないのでしょうか。実際は、2009年の9月からペン画花歳時記を掲載させていただいたのが、そもそもの始まりでした。よくここまでお付き合いをいただきありがとうございます。

余談はさておき、今回の絵はペン画を始めたころの初期の作品です。ご承知の通り、キンデルダイク は、オランダの南ホラント州 ニーウ・レッケルラント基礎自治体内の地区で、ロッテルダム の南東約 13 km の位置にあり、レク川とノールト川に挟まれた地区である。ここの風車網は1997年に「キンデルダイク＝エルスハウトの風車網」としてユネスコの世界遺産に登録されています。

申し合わせ
事 項

ならやま環境整備活動や
野外行事は、前日午後7時
前のNHK TV天気予報で
降水確率が午前60%以上の
場合は中止になります!!

会報誌「ネイチャーなら」・第138号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>

8月号の印刷・発送予定について

日時：平成25年7月30日(火)am9:00～

於：奈良市ボランティアセンター

編輯子一ム・代表鈴木末一